

平成28年度 事業報告書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

公益財団法人 日立財団

目 次
(平成28年度事業報告)

概 要	1
1. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究助成、及び顕彰	
1.1 倉田奨励金(研究助成金)の交付	2
1.2 <u>環境NPO助成活動報告会</u>	2
1.3 スtockホルム犯罪学賞への助成	2
2. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための海外研究者の招聘、及び研究支援	
2.1 日立スカラシップ事業	
(1) 博士課程留学支援プログラム(旧:日立スカラシップ)	2
(2) 短期研究者招聘プログラム(旧:日立フェローシップ)	3
(3) <u>駒井フェローシップ</u>	5
3. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究者の海外派遣	
3.1 倉田奨励金受領者の研究成果発表支援のための海外渡航費補助	5
4. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための調査研究の実施、出版物の刊行、及びシンポジウム・セミナーの開催	
4.1 機関誌「季刊・環境研究」および「倉田奨励金研究報告」等、出版物の刊行	
(1) <u>季刊 環境研究</u>	5
(2) <u>倉田奨励金研究報告</u>	6
4.2 シンポジウム・セミナー等の開催	
(1) <u>社会教育シンポジウム</u>	6
(2) 高尾基金(茨城大学社会公開セミナー、市民公開講座)	6
5. 幼児、児童、青少年の健全な育成に関する取組みへの支援	
5.1 横山基金事業:日立少年少女発明クラブへの助成	7
5.2 <u>小平記念教育資金事業</u>	7
5.3 小平記念作文事業	7
5.4 日立市少年少女スポーツ育成大会事業	8
5.5 <u>こども・みらいサポート事業</u>	8
5.6 地域家庭教育支援事業	8
5.7 理工系人財育成支援事業	10
6. 地域コミュニティ活動の支援	
6.1 小平奨励賞(社会的功労者の顕彰)	10
6.2 地域活動推進事業	10
(1) BBSモデル活動事業への助成	11
(2) <u>親子ふれあい工作教室、紫翠苑公開シンポジウムおよび茨城県BBS・サマーキャンプ</u> への助成	13
6.3 地域コミュニティに資する助成事業に関する調査・検討	14
7. 処務の概要	14

注) 下線を引いた事業は平成28年度で終了した事業

概要

平成28年度は研究助成事業のリニューアル1件、および理工系人財育成支援事業の体系化を行なった。また、既存事業については広く社会課題の解決に資する事業を継続する観点で見直し(当該年度で終了:9件)を実施した。

特に研究助成事業である「倉田奨励金」では、助成対象分野をエネルギー・環境、都市・交通、健康・医療とし、また社会課題解決に資する研究を支援するために、自然科学の研究だけではなく、社会科学とも関連する文理融合研究にも助成する、日立財団として特徴ある事業にリニューアル出来たと考えている。

また、理工系人財育成支援事業では日立財団の注力分野である「人づくり」の柱としてイノベーションを創出できる次世代の理工系人財を育てることを目的に学習プログラムを独自開発した。

1. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究助成、及び顕彰

1.1 倉田奨励金(研究助成金)の交付

本事業は平成26年度までに、1,293件の研究テーマに総額約22億4,000万円を贈呈し、国内の研究活動の支援を行ってきた。平成27年度は時代の変化に沿った事業内容に見直すため1年間休止し、平成28年度より新しい「倉田奨励金」として再開した。

新しい「倉田奨励金」は以前の名称を継承するものの、助成対象分野をこれまでの学術分野から、3つの応用技術分野に変更し、社会課題解決に資する基礎・応用分野の先駆的な研究テーマとした。また、助成対象分野の変更にとめない科学技術に限らず、文理融合の研究テーマも対象とした。平成28年度の実施内容は以下の通り。

(1) 助成対象者

国内の研究機関(博士後期課程を有する研究科及び同研究科に係る学部、または文部科学省科学研究費補助金の申請ができる法人)に所属する研究者を対象とした。ただし、国籍は問わない。

(2) 助成対象分野

①エネルギー・環境、②都市・交通、③健康・医療の3分野における社会課題の解決に資する基礎的、融合的な研究とする。また自然科学と社会科学の分野横断的、融合的な研究も助成対象とする。

(3) 助成金額

助成金総額は3,000万円とし、1件あたりの助成金額は100万円程度(上限300万円)。

(4) 募集方法

募集案内を当財団ホームページに掲載し募集した。募集期間は平成28年6月30日～9月26日とした。

(5) 選考委員

6名の選考委員による審査を行い、選考委員会にて受領者を選定した。

- ・選考委員長 大西 隆 日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長
- ・選考委員 小豆畑 茂 日立製作所フェロー
- 佐久間一郎 東京大学大学院工学系研究科教授
- 城山 英明 東京大学公共政策大学院教授
- 須田 義大 東京大学生産技術研究所教授
- 矢部 彰 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)ユニット長

(6)助成金の贈呈

大学:65校、工業高等専門学校:1校、研究機構:6機関から計191件の応募があり、選考委員会で慎重かつ厳正に審査を行った結果、エネルギー・環境:10件、都市・交通:5件、健康・医療:15件の計30件(内、文理融合研究5件)に対し、合計3,000万円を交付することを決定し、平成29年3月1日(水)に経団連会館において贈呈式を行った。

1.2 環境NPO助成活動報告会

平成14年度に創設した「環境NPO助成」は平成27年度を以って終了したが、助成成果に関する報告会のみを平成28年度に行った。本活動報告会は助成受領団体による活動報告とともに、NPO相互の情報交換・交流の場であり、環境分野のNPO・NGOや企業、財団など約50名が参加した。本報告会を最後に環境NPO助成に関する全ての事業を終了した。

・日時:平成28年7月9日(土)13:00~18:00

・場所:中央区立環境情報センター(東京スクエアガーデン6F)

・発表団体:15団体(口頭発表:11団体、報告書発表:4団体、過去2年間の助成団体が対象)

1.3 スtockホルム犯罪学賞への助成

スウェーデン法務省の後援を受けて、犯罪学分野の国際賞「ストックホルム犯罪学賞」が創設された。この賞は犯罪研究に優れた業績、もしくは研究結果を応用して犯罪の低減と人権の促進に貢献した方に贈られるものとなっている。ストックホルム犯罪学賞は、毎年1名(共同研究の場合は複数名)の受賞者に贈呈される。初の授賞式は平成18年6月にストックホルム市庁舎で開催された。これまで、「ストックホルム犯罪学賞」はスウェーデン政府による運営であったが、平成23年12月のスウェーデン議会において、「ストックホルム犯罪学賞」の運営財団設立が認可され、スウェーデン政府により1400万スウェーデンクローナ(約1億6千万円)の予算が割り当てられた。現在は、この「ストックホルム犯罪学賞」運営財団により、賞の運営が行われている。当財団は、平成18年度に500万円助成支援して以来、平成19年度から毎年100万円を助成し、平成28年度も100万円を助成した。

2. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための海外研究者の招聘、及び研究支援

2.1 日立スカラシップ事業

(1)博士課程留学支援プログラム(旧:日立スカラシップ)

自然科学分野を専門とする東南アジア4カ国、指定13大学の教員を対象に平成28年度奨学生の選抜と受入れを行った。タイ・インドネシア・フィリピン・ベトナムの6大学から応募があり、この中からタイ1名 インドネシア1名 フィリピン1名、計3名の受入れを決定した。受入れを決定した奨学生のうち1名は平成28年10月から、残り2名は平成29年4月から各大学の博士課程にて就学に入った。

平成29年度の招聘者については6月から10月にかけて募集を行い、11月に財団事務局による書類審査、12月から翌年の1月にかけての現地面接を財団事務局にて実施した。

平成28年度の受入れ奨学生は下記の通り。

- ① ホーチミン工科大学(ベトナム)講師 Ms.Nga Thi Thanh
豊橋技術科学大学 環境・生命工学 博士課程

② スラバヤ工科大学(インドネシア)講師 Mr.Adi Kurniawan
 広島大学 輸送・環境システム 博士課程

③ コンケン大学(タイ)講師 Mr.Jonggrist Jongudomkarn
 大阪大学 電気電子工学 博士課程

(i) 奨学給付金の支給

奨学生には規定に従い、下記奨学給付金を支給した。

- 1) 来日・帰国旅費:エコノミークラス航空運賃
- 2) 奨学金: 18万円/月
- 3) 入学金、授業料等: 実費
- 4) 住居費補助: 実費(但し、上限4万円/月)
- 5) 研修旅費(研究調査、学会参加費等):国内: 実費(但し、上限5万円/年)
 海外: 実費(但し、上限20万円/年)

(ii) 奨学生支援

日本への留学をより意義深いものとする為、従来同様下記を実施した。

- 1) 新人奨学生を対象としたオリエンテーション
 財団の理念・事業内容説明、日本での生活立上げ・研究実施に関する助言、
 留学期間中の母校・財団への報告・連絡方法等
- 2) 日本の文化及び社会への理解を深めるための研修・視察旅行
- 3) 日立グループ内事業所並びに社外研究機関・施設等の視察見学会
- 4) 留学先研究室訪問による奨学生の勉学状況及び生活状況の把握と指導教員との
 コミュニケーションの強化
- 5) 交流ボランティアとの交流による日本理解と国際親善促進の支援

No	行事名称	日時・場所	参加者
1	夏季研修旅行	平成28年8月22日(月)～ 8月24日(水) 新潟(中条・佐渡・燕三条)	奨学生 (14名)、 財団スタッフ
2	秋入学奨学生 オリエンテーション	平成28年9月30日(金) 於 財団事務所	新人奨学生 (1名) 財団スタッフ
3	奨学生卒業式	平成29年3月17日(金) 於 日本工業倶楽部	奨学生、大学・大使館関 係者、財団役員・選考委 員、日立関係者他
4	春入学奨学生 オリエンテーション	平成29年3月31日(金) 於 財団事務所	新人奨学生 (2名) 財団スタッフ

(2) 短期研究者招聘プログラム(旧:日立リサーチフェロースhip)

自然科学分野の博士課程を修了した東南アジア6カ国、15大学の教員を招聘し、日本の
 大学・研究所との学術交流や共同研究を支援する事業。平成28年度は5カ国、9大学から 1
 1名の教員を招聘した。

平成29年度の招聘者については6月から10月にかけて募集を行い、11月に財団事務局によ
 る書類審査、12月から翌年の1月にかけて現地面接を財団事務局にて実施した。

平成28年度の招聘者は以下の通り。

- ① チュラロンコン大学 講師 Dr.Prompong Pienpinijtham
招聘期間:平成28年6月13日～8月5日
招聘先:関西学院大学 理工学部
研究テーマ:ナノサイズの金属チップと他のナノ構造/ナノレイヤーからなるギャップ構造に基づく TERS (Tip-enhanced Raman scattering:チップ増強ラマン散乱)

- ② チュラロンコン大学 講師 Dr. Thanyada Rungrotmongkol
招聘期間:平成28年9月1日～10月2日
招聘先:名古屋大学大学院理学研究科
研究テーマ:新規抗がん剤、抗ウイルス薬の理論的設計

- ③ コンケン大学 講師 Dr.Jetsrisuparb Kaewta
招聘期間:平成28年11月2日～12月17日
招聘先:東京工業大学 物質理工学院
研究テーマ:空気電池亜鉛陽極の性能とジオポリマ

- ④ キングモンク工科大学(トンブリ校) 講師 Dr. Duangrudee Kositgittiwong
招聘期間:平成28年7月14日～8月15日
招聘先:北海道大学 工学研究院 水工水文学
研究テーマ:チャオプラヤ川洪水ハザード・マップと無線システム

- ⑤ ハノイ工科大学 講師 Dr. Thuy Minh Le
招聘期間:平成28年10月19日～12月3日
招聘先:名古屋工業大学 情報工学
研究テーマ:次世代5G 携帯電話システム用アンテナ設計技術

- ⑥ ハノイ工科大学 講師 Dr.Chuyen T. Nguyen
招聘期間:平成28年7月31日～8月31日
招聘先:会津大学 コンピュータ工学
研究テーマ:大規模 RFID の行方不明タグアルゴリズム

- ⑦ ホーチミン工科大学 講師 Dr. Trung Kien Pham
招聘期間:平成28年9月5日～10月19日
招聘先:東京工業大学 理工学研究科
研究テーマ:ベトナム産米籾殻灰由来シリカの有効利用

- ⑧ インドネシア大学 講師 Dr. Anom Bowolaksono
招聘期間:平成28年10月2日～11月30日
招聘先:東京工業大学 生命理工学研究院
研究テーマ:ヒト精子活動活性化因子の抑制法

⑨ バンドン工科大学 講師 Dr. Priastuti Wulandari
招聘期間:平成28年9月1日～11月30日
招聘先:九州大学 先導物質化学研究所
研究テーマ:太陽電池における金属ナノ粒子の効果

⑩ ガジャマダ大学 講師 Dr. Sunu Wibirama
招聘期間:平成29年1月10日～1月25日
招聘先:芝浦工業大学 工学部情報工学
研究テーマ:心拍を用いた3D 映像酔い検知

⑪ マラヤ大学 講師 Dr. Nur Awanis Hashim
招聘期間:平成28年12月2日～12月31日
招聘先:神戸大学 工学研究科
研究テーマ:PVDF 膜の表面改質(水の浄化フィルタ)

(3) 駒井フェローシップ

人文・社会科学分野を専門とする東南アジア6カ国、指定15大学の教員を招聘、日本の文化、教育、歴史、経済等の研究を支援する事業。平成28年度はタイから教員1名を招聘した。

① チェンマイ大学 講師 Dr. Sumanatsya Voharn
招聘期間:2016年10月5日～11月24日
招聘先:宇都宮大学 教育学部 美術教育講座
研究テーマ:日本の漆技術と現代工芸

尚、本プログラムに関しては、平成28年度の招聘者を以って終了し、平成29年度の募集は行わない。

3. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究者の海外派遣

3.1 倉田奨励金受領者の研究成果発表支援のための海外渡航費補助

平成18年度から倉田奨励金受領者が受領テーマに関する研究成果を国際会議等で発表する際に海外渡航費補助を行っている。平成28年度は以下通り実施した。

- (1) 応募資格:過去2年間(平成25～26年度)の倉田奨励金受領者
- (2) 応募申請:年4回、四半期毎に応募受付け
- (3) 審査方法:日立財団事務局にて審査
- (4) 審査結果:渡航費補助:16件、総額240万円(上限15万/件)

4. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための調査研究の実施、出版物の刊行、及びシンポジウム・セミナーの開催

4.1 機関誌「季刊・環境研究」および「倉田奨励金研究報告」等、出版物の刊行

(1) 季刊 環境研究

平成28年度は特集号を発行し、年間購読会員(約100名)への配布と共に、全国の官公庁、学校、図書館、主要環境関連団体に寄贈した。「季刊 環境研究」は環境問題の専門誌として高い評価を得ており、その意味で当初の目的を達成したことから本号を最後に終了とした。

①発行号:NO. 182「季刊 環境研究のレガシー(特集号)」

②概要:過去の掲載論文(15分野)の主なものを取り上げ、本誌の足跡を記録し、後世の環境政策・研究の参考にすることを目的に論稿を掲載。

③発行数:約2,500部

(2) 倉田奨励金研究報告

平成28年度は倉田奨励金受領者による研究報告(第46集)を発行し、全国の大学・研究機関、過去の倉田奨励金受領者などに贈呈し、事業を終了した。

4.2 シンポジウム・セミナー等の開催

(1) 社会教育シンポジウム

平成28年度は、「漂流する高齢者」を副題とし、加速する高齢化の問題に焦点を当て、12月10日(日)に開催、約140が参加した。当日はB&Bのメンバーとして一世を風靡した漫才師、島田洋七氏による「洋七・オカンのがばい介護日記」と題した基調講演のあと、「下流老人」という言葉を生み出した、生活困窮者支援を行うNPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典氏、本シンポジウムのコーディネーターで、犯罪学の専門家、犯罪予防論の研究を続けられている拓殖大学政経学部教授の守山正氏、認知症の専門家で数多くのご講演や執筆をされている認知症介護研究・研修東京センターの永田久美子氏、地域の医療・介護職と共有するICTシステムの担当者であり、自身も介護におけるICTの役割を研究中の(株)日立製作所公共システム事業部の川崎英樹氏の4名のパネラーによる講演およびパネルディスカッションを実施した。

社会教育シンポジウムとしての実施は平成28年度で終了し、平成29年度からは広範多岐に渡る分野の中から現代社会が抱える様々な社会課題をテーマに選び、新たな形で開催する。

(2) 高尾基金事業(茨城大学社会公開セミナー、市民公開講座)

本事業は日立製作所元副社長 故高尾直三郎氏のご遺族からの遺贈財産を基金として、平成6年より「茨城大学イブニングセミナー」と「高尾記念市民公開講座」を開催してきた。「茨城大学イブニングセミナー」については平成21年で終了し、平成22年度より「茨城大学社会公開セミナー」として、従来のイブニングセミナーを継承した「先端科学トピックス」と専門講座として、「実践産業技術特論」を開始した。

① 茨城大学社会公開セミナー

「茨城大学社会公開セミナー」としてスタートし、7年目となった平成28年度は「先端科学トピックス」を前期に8回実施し、累計聴講者は744名。「実践産業技術特論」は後期に4回の工場見学も含め15回実施し、累計受講者は416名であった。

なお、本事業は当初の目的を達成したため平成28年度で終了した。

② 高尾記念市民公開講座

安東正樹氏(東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 准教授)を講師に迎え、2015年9月に史上初めて観測された重力波による天文学をテーマに、「重力波で宇宙を探るーアインシュタインの相対論と新しい天文学ー」と題し、第12回市民公開講座を実施した。

・日時:平成28年10月30日(日)13:30~15:00

・場所:御茶ノ水 WATERRAS COMMON (ワテラスコモン)ホール

・参加者:100名

当日の講演録は質疑応答も含め、当財団ホームページに掲載し、一般に公開した。なお、本事業は平成29年度から名称を「高尾記念科学技術公開セミナー」と改め、年2回開催する。

5. 幼児、児童、青少年の健全な育成に関する取り組みへの支援

5.1 横山基金事業：日立少年少女発明クラブへの助成

日立化成株式会社元相談役である横山亮次氏より贈呈された寄付金を基金として、平成11年度より実施。平成14年度からは、子ども達の科学・創造性振興に貢献するプログラムとして、日立市の「日立少年少女発明クラブ」への助成を実施してきた。

平成28年度も平成29年3月5日(日)に日立シビックセンターで「横山基金日立少年少女発明クラブ競技会」を開催し、子ども達の創作活動の様子や作品発表を横山氏が見学した。

5.2 小平記念教育資金事業

茨城県内の小中学校を対象に、児童生徒の豊かで創造的な人間性の育成をめざし、全職員が一体となって努力し著しい教育成果をあげ、引き続き研究と実践が期待される学校を選出し、30万円相当の日立製品もしくは20万円相当品を贈呈している。

平成28年度は下記5校に教育関係の機材や備品等の支援として各30万円相当品を贈呈した。累計贈呈校は小学校240校、中学校69校となった。

本事業は当初の目的を達成したため、平成28年度で終了した。

部 門	学 校 名
学力向上の推進	神栖市立 神栖第三中学校
科学技術教育の推進	東海村立 白方小学校
環境教育の推進	境町立 森戸小学校
国際教育の推進	土浦市立 神立小学校
心の教育の推進	常陸太田市立 幸久小学校

5.3 小平記念作文事業

未来を担う子どもたちの心豊かな人間性を養うために、身近な題材をもとにしたテーマを設定して小平記念作文を募集し、優秀作品を表彰している。平成28年度は18,932編の応募があり、数次にわたる審査を経て、入賞者33名及び入選者102名を決定した。

本事業は基礎教育・社会教育の振興として大切であることから事業を継続するが、茨城県内で実施する当財団の事業全般を東京に集約(茨城事務所は閉鎖)したことから、これまで自前で実施してきた作文事業の運営方法を見直し、大好き いばらき県民会議の作文表彰事業「大好き いばらき 作文コンクール」との共催事業として平成29年度から実施する。

▼小学校低学年の部

最優秀賞 「ひいおばあちゃんの目のかわりに」

水戸市立 笠原小学校 2年 菅谷 乙羽

(入賞11名(最優秀賞1名、優秀賞5名、奨励賞5名)、入選34名、以上合計45名)

▼小学校高学年の部

最優秀賞 「悔しさの中で見つけたこと」

石岡市立 小幡小学校 4年 北村 桃奈

(入賞11名(最優秀賞1名、優秀賞5名、奨励賞5名)、入選34名、以上合計45名)

▼中学校の部

最優秀賞 「我が家のちょっと変わった伝統行事」

かすみがうら市立 霞ヶ浦中学校 1年 仲澤 美穂

(入賞11名(最優秀賞1名、優秀賞5名、奨励賞5名)、入選34名、以上合計45名)

5.4 日立市少年少女スポーツ育成大会事業

平成28年度は、「竹内亀次郎記念杯 日立市少年少女スポーツ育成大会」を平成28年8月20(土)～21日(日)の2日間、日立市市民運動公園陸上競技場他、12会場において開催した。今回は低学年の部を新設した軟式野球を始め、サッカー、バレーボール、ミニバスケットボール、バドミントンの5種目に合計97チーム、1,257名が参加した。

また、今年1月に日立市市民運動公園の総合体育館「日立市 池の川さくらアリーナ」がオープンしたことを記念し、日立財団紹介ブースを設置した。財団活動の紹介パネルと共に大会第1回の優勝旗やトロフィーなどを展示し、会場を利用される方々に紹介していく。

5.5 こども・みらいサポート事業

「社会性のあるたくましい子ども作り」を目的に、地域の青年ボランティア組織であるBBS会が中心となり、地方自治体・子供の健全育成に関わる各種関係機関・団体が幅広く連携し、子ども達に様々な体験活動を実践させている。

平成28年度は11月12日(土)、13日(日)の2日間、大分県社会教育総合センター九重青少年の家において、「challenge&change 見つけようえ！～しんけん輝く僕らのいいところ～」のコンセプトのもとで、小学4～6年生50人とBBS会員約100名が集い、灯籠づくり、灯籠キャンプファイヤーなどを実施した。本事業は当初の目的を達成したため、平成28年度で終了した。

5.6 地域家庭教育支援事業

平成26年度末(平成27年3月末)に終了した「教室事業」に代わる事業として、家庭教育及び子育て支援に関する講演会等を以下の通り実施した。

1) 日立市教育委員会との共催事業

(1) 演題:「子育てで大切なこと～基本的なことを中心に」

対象:未就学児を持つ保護者、保育・幼児教育関係者

人数:68人

日時:平成28年12月3日(土) 午前10時から午前11時30分まで

場所:日立市子どもセンター 子育て支援室

講師:飛田 隆 氏 茨城キリスト大学准教授

(2) 演題:「みんなの学校上映会&飛田 隆先生講演会」

対象:小学生以下の子を持つ保護者、保育・幼児・学校教育関係者

人数:138人

日時:平成29年1月28日(土)午後1時30分から午後4時20分まで

場所:日立シビックセンター 3階 音楽ホール

講師:飛田 隆 氏 茨城キリスト大学准教授

(3) 演題:「1人ひとりと向き合う保育」

対象:幼児施設に勤務する保育士、教員等

人数:63人

日時:平成29年2月18日(土)午前10時から正午まで
場所:多賀図書館 4階 大ホール
講師:菊地 政隆氏 社会福祉法人 東京児童協会理事

(4)演題:「いまどきの子育てに大切なこと」

対象:未就学児を持つ保護者、保育・幼児教育関係者
人数:137名

日時:平成29年3月4日(土)午後1時30分から午後3時まで
場所:日立市池の川さくらアリーナ 1階 サブアリーナ
講師:大豆生田 啓友氏 玉川大学大学院教授

2) 社会福祉法人 ももの会への助成事業

(1)演題:「交通ルールを学びましょう」

対象:園児 48名 保育士 5名 計53名
日時:平成28年7月1日(金) 午前10時半から午後12時まで
場所:社会福祉法人 ももの会 丘の上保育園 グランド
講師:エブリバディストライダー 守山 大輔 氏
内容:実際に自転車を使用して交通ルール(安全)を身につける

(2) 演題:「民謡に触れよう 民族歌謡団 荒馬座」

対象:園児40名 保護者51名 保育士20名 合計111名
日時:平成28年7月2日(土) 午前9時半から午前10時半まで
場所:社会福祉法人 ももの会 芙蓉保育園 1階ホール
講師:郷土文化研究会 荒馬座
内容:和太鼓の響き民舞の躍動を感じる

(3)演題:「SNSの危険性を学びましょう」

対象:保育士80名
日時:平成28年9月10日(土) 午前10時半から午後12時まで
場所:社会福祉法人 ももの会 南戸塚保育園 3階ホール
講師:グリー株式会社 安心安全チーム 小木曾 健 氏
内容:インターネット上で起きた実際の炎上事例等を題材にして、問題点を整理しながらインターネット上での「適切なふるまい」や「正しい使い方」を学ぶ

(4)演題:「元気な体と心を子どもたちへ」

対象:保育士70名
日時:平成28年11月12日(土) 午前10時半から午後12時まで
場所:社会福祉法人 ももの会 丘の上保育園 1階ホール
講師:真弓 定夫 氏 真弓小児科医院 院長

内容:・昔ながらの自然な育児法
・薬を出さない注射も打たないことの利点
・食事などの生活環境を整えるとは?
・医学が進歩してもなぜ病気が減らないのか? を分かりやすく解説

5.7 理工系人材育成支援事業

近年、「科学離れ」「理科離れ」が叫ばれる中、ものづくりやイノベーションの基盤が揺らぐことが危惧されている。平成27年3月には文部科学省が「理工系人材育成戦略」を発表するなど、日本の次世代を担う理工系人材の戦略的育成が課題となっている。理工系人材に求められる能力は段階的・発展的に育成されることから、初等中等教育段階から取り組むことが重要とされている。そうした背景を受け、平成28年度は日立財団の注力分野である「人づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人材育成支援事業」を体系化した。

(1) 日立みらいイノベータープログラム

小学生向けには、社会イノベーション事業を題材に、理科的・技術的思考を活かした課題解決型の教育プログラム「日立みらいイノベータープログラム」を開発し、平成29年度からの本格展開に向け、検証授業を平成28年11月～平成29年3月にかけて国立第八小学校の5年生を対象に実施した。

平成29年度は、日立グループの社員をボランティアに活用し、本プログラムを出張授業として実施予定であり、それに先立ち本プログラムの説明会を実施する。更に、財団の理工系人材育成を下支えするために、広く教育トレンドの発信の場、教育関係者同士の交流の場を提供することを目的とする教育フォーラムを実施する予定。

(2) 日立サイエンスセミナー

子どもたちに理科の面白さを感じてもらおうことを目的として開催している科学実験セミナー「日立サイエンスセミナー」を科学技術館と日立グループ各社(日立金属、日立製作所日立研究所、日立化成、日立製作所中央研究所、日立ハイテクノロジーズ)の協力を得て、科学技術館にて平成28年9月～平成29年3月の間に月1回のペースで開催した。

(3) 理工系女子応援プロジェクト

中・高生向けには平成28年8月20日(土)、内閣府の理工チャレンジ(リコチャレ)に賛同し、東京都江東区の日本科学未来館において、「未来をつくるリケジョたち!」というシンポジウムを開催。女子中学生・高校生や保護者の方々、大学生など、約80名が参加した。

当日は日立財団の川村会長(日立製作所名誉会長)による「次世代を担う君たちへのメッセージ」と題した基調講演に続き、東京大学生産技術研究所の教授大島まり氏、株式会社アクアビット代表取締役の田中栄氏、アントレプレナー研究者であり、起業家、助教の顔も持つ玉城絵美氏の3名のゲストに迎え、「女性視点が起こすイノベーションとは?」をテーマにパネルディスカッションを実施した。

(4) 科学の甲子園および科学の甲子園ジュニア

理工系人材育成支援の一環として、「科学の甲子園」および「科学の甲子園ジュニア」に協賛し、企業特別賞として「日立財団賞」を授与した。

6. 地域コミュニティ活動の支援

6.1 小平奨励賞(社会的功労者の顕彰)

茨城県内において社会に地道な貢献をされている個人や団体を発掘し、その功績を顕彰するとともに日頃の精進を激励することを目的に、昭和48年から「小平奨励賞」を制定し表彰してきた。

第44回目となる平成28年度は、54件の応募があり、選考委員会で奨励賞2件と特別賞1件を選出した。これまでの表彰件数は、個人・団体合わせ累計115件となった。

区分	受賞者	活動概要
奨励賞	鈴木 彪夫 (77歳) (石岡市)	20年に亘り、東光台地区の沿道や近隣の公園などの除草・清掃作業を自ら率先して行い、地域の環境美化に務めている。 また、交番周辺の草木伐採、花壇整備のほか防犯標語の看板・幟の設置や地域巡回を行うなど、地域と交番との橋渡し役として安全・安心のまちづくりにも尽力している。
奨励賞	取手朗読奉仕会 ぶんぶん (18名) (取手市)	41年に亘り、取手市内の視覚障害者のために広報誌等の情報誌を音訳したCDを届けるほか、茨城県立点字図書館図書の情報誌、対面朗読など情報を必要とする視覚障害者の方の目となり、その生活の一部を支えている。 また、音訳勉強会を開くなど会員の朗読の基礎修得、デジタル録音技術の習得に熱心に取り組み、「利用者の方々が聞きやすい音訳」をめざし、日々努力している
特別賞	フレンドリー あんず (61名) (日立市)	31年に亘り、東南アジアの子どもたちへの教育支援や在住外国人の日本語教室の開催、文化交流事業の実施など地域に根ざした活動を続けている。また、在住外国人が地域の一員として活躍できるように、地元大学や地域コミュニティ組織などと連携し、地域と外国人をつなぐ活動にも取り組んでいる。

6.2 地域活動推進事業

(1) BBS^{※1}モデル活動事業への助成

全国のBBS活動の中から、将来のBBS活動の指針となり、かつ青年ボランティアとしての特色を生かしたユニークな活動に対して助成している。

本事業は、意欲的に活動に取り組むBBS会にとって、極めて貴重な財政的支援となっている。また、全国で実施された魅力的なBBS活動は、日本BBS連盟においてモデル活動事例として蓄積がなされ、BBS連盟外部への広報用資料として使用、あるいはBBS連盟内部でのBBS活動活性化用資料として使用するなど、有効に活用されている。平成28年度は日本BBS連盟が推薦した下記の12団体に助成した。

※1: BBS (Big Brothers and Sisters Movement) 活動

兄や姉のような身近な存在として、問題を抱える少年少女を援助する青年ボランティア団体が展開する更生保護ボランティア活動

番号	連盟・地区会	活動名	活動内容	申請額(円)
1	釧路BBS連盟 北見BBS会	オホーツクウッドブロック	児童館を利用し、40名程度を集め、ウッドブロックを使い楽しさを知ってもらうと共に協力する心と思いやりの気持ちを醸成する。	90,000
2	青森県BBS連盟 青森県立保健 大学BBS会	学習支援ボランティアおよび一人親家庭の子どもたちへの友達活動	すべての子どもが将来に希望を持てるよう、一人親家庭の子ども自立支援を目的に青森家庭少年問題研究会が行う学習支援活動において学習支援ボランティアや友達活動を行う。	170,000
3	栃木県BBS連盟	自分で創ろう絵本ストーリー(複数年実施2年目)	絵本等を自由な発想で読み込み、グループ討論後、新しいストーリーを創作。今後は地区会主導に移行できるようにノウハウの蓄積、マニュアル化を段階的に進め、県内各地で継続実施できるようにする。	90,000
4	岐阜県BBS連盟 岐阜市BBS会	矯正展と子供の育成	更生保護事業の理解促進を目的に岐阜刑務所矯正展(来場者数 3,000人)において出店、展示ブース及びゆるキャラ活動を行う。	110,000
5	愛知県BBS連盟 名古屋南地区 BBS会	作ろう！僕たち・私たちの居場所(複数年実施1年目)	家を作ることで子ども達の居場所を作る活動。完成後、施設に入所した子ども達と鍋パーティーを実施する。	180,000
6	大阪府BBS連盟 八尾地区BBS会	ハイスピリットボクシングクラブ サマーキャンプ in 琵琶湖	琵琶湖でサマーキャンプを行う。レクリエーション活動としてBBQ やマリンスポーツを行うほか、社会貢献活動として琵琶湖周辺のゴミ拾いを行う。	140,000
7	和歌山県BBS連盟 高野山BBS会	学習に困難がある子どもの学習支援活動	生活困窮など学習に困難がある子どもの学習支援を心理教育サポートセンターと協力して行い、子ども達の健全育成を図る。	170,000
8	徳島県BBS連盟 徳島文理大学 BBS会	小学校児童と一緒に自然の中でのふれあい活動(複数年実施1年目)	徳島市内の児童養護施設「徳島児童ホーム」の小学校児童を対象に徳島県立神山森林公園を会場として、自然の中で、ネイチャーゲーム、ボール遊び、工作、食事等を通じて、楽しいふれあい活動を実施し、子どもたちの楽しい思い出づくりや豊かな成長に寄与する。	70,000

9	香川県BBS連盟 財田地区BBS会	皆で筍を掘って みよう！！ そして食べて みよう！！	小学生と親と一緒に なって筍を掘り、 更生保護女性会や婦人 会の方々と共に筍料理 を作り、一緒に食しな がら交流を育む。また 老人会の方が作る竹 製玩具に触れて遊ぶ。	50,000
10	愛媛県BBS連盟 えひめBBS学生 連盟	松山学園との 交流	松山学園との交流と して盆踊、花火、バル ーンアート、百人一首 といった活動を行う。 また学生連合会員に 対し、少年院への理解 を深めるための事前 研修を開催する。	70,000
11	佐賀県BBS連盟 佐賀地区BBS会	地域を知ろう …有田焼き40 0年にチャレンジ！！ プラスα	地域の子どもたちと 共に地元の産業や歴史 に触れながら、「地域は 故郷」の心を育む。ま たBBS会員との交流を 通して、孤立感の解消 や居場所作り、思い出 作りを行う。	170,000
12	佐賀県BBS連盟 佐賀大学BBS会	もうすぐX'mas… 家族の為にケーキを つくろう！	地域の子どもたち約 60名と一緒にケーキ 作りしながら家族間の 語らいの場を設けるこ とにより子ども達の成 長を図る。	90,000

(2) 親子ふれあい工作教室、紫翠苑公開シンポジウムおよび茨城BBS・サマーキャンプへの助成

平成28年度も地域の子ども達を対象とするボランティア団体等と連携した下記の活動に助成した。

① 親子ふれあい工作教室

東京都八王子市で凧作り・凧揚げを行う「親子ふれあい工作教室」を平成28年12月3日(土)と17日(土)に開催し、それぞれ、154名と107名が参加した。

② 紫翠苑公開シンポジウム

平成28年3月3日(土)に更生保護施設「紫翠苑」において、91名が参加する中、「更生保護施設は今」と題し、公開シンポジウムを開催。また3月5日(土)には社会体験事業であるワークショップ(被保護者とボランティアスタッフによる共同シルバーリング製作作業)を開催するなど少年少女の自立に向けた支援を行った。

③ 茨城BBS連盟・サマーキャンプ

少年を対象とした茨城県BBSのサマーキャンプを平成28年9月10日(土)、11日(日)の2日間、御前山青少年旅行村(常陸大宮市)にて開催し、60名が参加した。
親子ふれあい工作教室と茨城県BBS連盟主催のサマーキャンプについては、当初の目的を達成したため、平成28年度で終了した。

6.3 地域コミュニティに資する助成事業に関する調査・検討

SDGs(持続可能な開発目標)に基づき、日立財団として特定した解決課題(社会課題)に対応する新規事業を立ち上げる。平成28年～平成29年はその新規事業案の調査・検討期間とする。本検討の一環として、米国NPO法人コペルニク共同創設者&CEO中村俊祐氏をファシリテーターに迎え、今後の方向性を考えるためのワークショップを実施し、日立財団として対応すべきSDGsの目標、課題の分析、新規事業案について財団メンバーと共に議論を深めた。

7. 処務の概要

(1) 役員等に関する事項

(敬称略・五十音順) 平成29年3月31日現在

役 職	氏 名	手 当	現 職
会長	川村 隆	無 給	(株)日立製作所 名誉会長
理事	畔柳 信雄	有 給	(株)三菱東京UFJ銀行 特別顧問
〃	高萩 光紀	〃	JXホールディングス(株) 名誉顧問
理事長	田中 幸二	無 給	(株)日立製作所 代表執行役 執行役副社長
理事	谷口 武俊	有 給	東京大学 政策ビジョン研究センター 教授
〃	道垣内正人	〃	早稲田大学 法科大学院 教授
〃	波多野睦子	〃	東京工業大学 工学院 電気電子系 教授
〃	二宮 雅也	〃	損害保険ジャパン日本興亜(株) 代表取締役会長
常務理事	小野寺浩幸	無 給	(株)日立製作所 CSR・環境戦略本部 副本部長
監 事	内田 晴康	有 給	森・濱田松本法律事務所 弁護士
〃	馬場 義宣	無 給	弁護士
評議員	荒井 勝	有 給	NPO法人日本サステナブル投資フォーラム 会長
〃	葛岡 利明	無 給	(株)日立製作所 代表執行役 執行役専務
〃	河野 通長	有 給	(株)ミチクリエイティブシティデザイナーズ 代表取締役社長
〃	白石 隆	〃	国立大学法人 政策研究大学院大学 学長
〃	谷本 寛治	〃	早稲田大学 商学大学院商学部 教授
〃	丸山 寿	無 給	日立化成(株) 代表執行役 執行役社長
〃	安井 至	有 給	(一財)持続性推進機構 環境人材育成コンソーシアム 代表幹事

(2) 職員に関する事項

平成29年3月31日現在

区 分	職 務	氏 名	就任年月日	手 当
東京事務所	事務局長	田村 光範	H28. 4. 1	無 給
	事務局次長 兼 シニアプログラムオフィサー	高野 美樹	H28. 4. 1	有 給
	シニアプログラムオフィサー	川本 正昭	H24.10. 1	〃
	事業担当	小野 珠美	H26.12.29	〃
	シニアプログラムオフィサー	牛尾 二郎	H25. 7. 1	〃
	事業担当	渋谷 紀子	H14.10.11	〃
	事業担当	寺村 奈津季	H11. 2.21	〃
	経理主査	梅本 恒紀	H21.9. 1	〃
	経理主査	岡本 義樹	H25.10. 1	〃

(3) 役員会に関する事項

理 事 会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	議事の結果
H28. 5. 11	評議員会招集の件	原案承認
H28. 6. 1	平成27年度事業報告及び決算諸表の承認の件 各種委員会設置の件 委員会規程制定の件 理事・監事候補者選任の件 評議員会招集の件 報告事項:理事長及び常務理事 職務状況報告 事務局長新任報告	原案承認
H28. 6. 1	代表理事選任の件	原案承認
H29. 1. 20	評議員会招集の件	原案承認
H29. 2. 23	平成29年度事業計画及び収支予算の件 公益目的事業変更申請の件 茨城事務所(従たる事務所)閉鎖の件 債権の保有区分変更に関する件 報告事項:理事長及び常務理事 職務状況報告	原案承認

評 議 員 会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	議事の結果
H28. 6. 1	理事・監事選任の件	原案承認
H28. 6. 17	平成27年度事業報告及び決算諸表の承認の件	原案承認
H29. 2. 23	平成29年度事業計画及び収支予算の件 公益目的事業変更申請の件	原案承認

(4) 認可・許可及び承認に関する事項

無

(5) 契約に関する事項

無

(6) 寄附金に関する事項

寄附の目的	寄附者	寄附金額
平成28年度運営資金	(株)日立ビルシステム、(株)日立ハイテクノロジー、日立金属(株)、(株)日立システムズ、日立化成(株)、(株)日立アーバンインベストメント、日立キャピタル(株)、日立工機(株)、(株)日立国際電気、(株)日立物流、(株)日立ソリューションズ、(株)三菱日立パワーシステムズ、他計 31 社・社友会 2 団体、個人1名	20,254,000 円

(7) 主務官庁の指示に関する事項

無

(8) 附属明細書

事業における重要な事項は平成28年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第三十四条第三項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特に無いため、当該年度の附属明細書は作成しない。

以上